

山科醍醐こどものひろば演劇部ぽっぷ・こーん「けしゴムおばけ」(2016.2.11)

チームワークの良さを感じました。全員が芝居を楽しんでる感が伝わり、観ていて心地よかったです。

冒頭シーンでのドロップが、はじめ何なのかわからず、何だろうと考えているうちに話が進んでいってしまいました。後に出てきたときに学校だとわかるのですが、もしかしたら最初のシーンはドロップなしでもよかったかもしれませんね。せっかくの手作りなのに、形の問題か吊り方の問題か、ドレープがかかっている学校には見えず残念でした。

学校で試験を受けている女の子が答案は書けたけれど、名前を間違っていることに気づき、消しゴムで消す、そのあと、消しゴムが転がって・・・のあとの動作が何をしているかわかりませんでした。また、すぐに、今日は最悪の日、といろいろエピソードが出るのが唐突でしかも簡略すぎて共感が持てぬまま、家のシーンになりました。冒頭部分の台本、動き、すべてを表現しないまでももう少し方法があったのではないかと思います。

暗転処理がスピーディーで、気持ちを途切れさせることなく観られました。

家具などを消すのに黒布を使ってうまく面白く処理していました。学校以外の布の使い方はとてもよかったです。消しゴムが大きなお化けになるところも布で表現していましたし、いいアイデアでしたね。

学校を消してしまったのを見た友だちのリアクションがうすく、共感がもてません。さらに、その友だちの「私みたいになる」というセリフに、「？」となりました。その友だちの背景が見えないからです。いきなりナイフを出すのも唐突でした。ラストに彼女の靴はなくなっていたほうがよかったと思いますが、あれはミスですか？

いい話なのに、全体的に、セリフが調子読みで、心が感じられず嘘っぽく感じました。そここちにちりばめられているギャグなど、全員で考えたのでしょうか、楽しそうではあるのですが。。。もっと深く役の気持ちに寄り添って、声に感情を乗せて、特に大事なセリフは丁寧にしゃべってほしかったです。

一生懸命稽古したんだろうと思いますし、それだけにセリフの薄っぺらさに惜しい感じがします。